

小学園もの

岡本 悠

はしる、にとって、小学生時代とは...

また、野球をやっていた

友人をいっぱい集めて、公園で野球をして遊んだ

大学ノートに、打率やホームラン、などの成績を書き、その試合の記事を書いた

そして、それを大事にしながら、楽しんだ

自分のチーム、ファイヤーズは、無敗のまま優勝した

ある時は、西武ライオンズの堅いヘルメットを被ったら、ホームランを打った

それを、翌日、学校の作文で書いたら、先生に「凄いね！」と褒められた

クラスに、身体の臭い女の子がいた

それを、ある生徒がからかい

「お前も、嗅いでみろよ」

と、言われた

俺は、つい、「くせー！」と言ってしまった

その子を、深く傷つけた

冤罪である

母には、女の子には、暴力を振るってはいけない、と、育てられた

しかし、1回過ちを犯した

その子は、大人しい

俺が、学校で、勉強を教える機会があったが、説明しても無視している

自分のやり方で、解いている

ある日、靴箱の前で、話しかけても無視をするので

俺はキレタ！

靴をその子に向かって投げつけたのだ

その子は泣いた

そして、別の女の子が「謝りなさいよ！」

と言ったので、

「ごめんなさい」

と、謝った

重罪である

とあるピクニックに行った時、

水中に、板が浮かんでいた、

それをわたって、向こうまで渡るのだが

すべての板が女子だけで、混んでいた

ダンゴ状態である

みんな、悲鳴をあげていた

そこで、はしる、は、面白がって

板の端をわたっていき、

結局、水中に落下した

ザバーン！

女子たちはキレタ！

「はしる！ ふざけんじゃねーよ！」

免罪である

俺は、苦手な男子生徒がいた

だから、無意識に無視をしていた

昔から、学校にスタンガンなどを持ち込んでいたので

そういうことも嫌だった

休み時間も、サッカーなどに誘わなかった

俺は、まだ、無難な人だけで遊ぶほうが楽しめた

ある日、筋トレをしようと、誘われて

1回やったが

それで終わった

バスケットボールの授業で、本気でマークをしたら、嫌がられた

俺を、睨みつけた

だから、苦手だった

ある時、クイズのアンケートを男子たちに配ったが

その男にだけは、これも無意識で配らなかった

そうしたら、男はキレタ！

俺の紙を奪うと、破り捨てた

俺は泣いて、女の子になぐさめられた

男を好きな女の噂話をしたら

男はキレタ！

俺は、しどろもどろ、になった

その後、中学生になった時、帰りに見つけたので、話をしようとしたが、煙たがられた

同窓会の時も、俺を敬遠して、睨んでいた

重罪である

小学校1年生の時、作文コンクールがあった

俺は、「やかん」という、作文を書いて出したら

作品集の本に乗った

...

3年生の時に、無意識に、また「やかん」という、作文を書いて出したら

先生が、「はしる君、確か、1年生の時も、やかん、という、題で出していたね」という話になり、一緒にわらった

確か、落選していたと思う

俺は、体育館の朝礼の時、倒れた

その理由は

猫の爪が、自分の目の中に入ったら、怖いな、

という想像から抜けられなくなり

いつの間にか、意識を失って倒れた

気づいたら、体育館の外にいて、教室にいた

親友の厚が、足にケガをした

松葉杖状態だったので

いつも、一緒に、学校に行っていたが

その日は、俺の家に来なかった

保健室で治療をしていたので、

何度も外から、首を振って、伸ばして、覗こうとした

それを、あとで、厚に、指摘された

「見ようとしてたね」と、

軽罪である

ある厳しい男の教師が

屋上の金網を乗り越えて

落ちたら死ぬような高さの場所で遊んでいた生徒を

叱った

罰として、今から、金網にしがみつけ

と言った

2人の生徒たちは、つかまっていたが

途中から、勘弁してくださいと、

泣きながら訴えた

傍観罪である

ある担任の先生が、誕生日をむかえた

クラスでは、生徒たちが、先生には内緒で

プレゼントを各自持ってくるようになった

俺も何かを持っていった

靴箱の近くでは、

先生が、事務員と話ながら

こっちをうかがっている

なんか、皆、持っているな、と

バレバレである

秘密罪だ

俺は、最後のクラブ活動くらい

仲のいい者で集まろうと考えた

皆には、トライアスロンクラブにしようと話した

だが、1人に誤って、卓球クラブにしよう、と言ってしまった

そのまま、その友達だけ、卓球クラブになってしまった

今でも、痛い傷である

裏切りである

背任罪である



俺は、小学校1年生の頃、ゲートボールが、メチャクチャ上手かった

ある謝肉祭で、

段ボールの迷路の中をくぐっていた

しかし、そこは狭く、身体をかがめて歩く

ついに息ができなくなった

しかし、段ボールを叩いても、誰も外から助けに来ない

苦しい

監禁罪である

運動会において、

騎馬戦があった

私事ではないが、

綺麗な姉と、その親友の綺麗な姉の友達が、

騎馬戦で、帽子を奪い合っていた

激しい激戦の行方はよく覚えていないが

引き分けだったように思う

松丘に別れを告げた

家に帰ると、母がカレーを作っていた

親友が、やってくる

いろんなことをして遊んだ

親友が、サッカーボールを蹴ると

壁に穴があいた

それを、俺は、近くの

黒人の子供のせいにした

母は、そんなに気にしていなかった

屋上では、親友が聴きたいといった、ビーズが流れた

太陽のコマチ・エンジェルが流れた

野球カードゲームで、イチローを登板させたら、高津が代打で出てきた

あの頃は、もう2度と、戻っては来ないのか...

「完」